

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	品川区立一本橋保育園
施設所在地	品川区大井2-25-1
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

昨年度から水中の生き物に興味をもっていた子どもたちで、遠足で水族館へ行ったりと、保育活動から一年を通して様々な子どもたちの興味関心が水中の生き物に深まる姿が見られた。
昨年度の取り組みや、周囲の様々な環境と身近な事象に好奇心や探求心をもって関わり、さらに生活に取り入れていこうとする力を養えるようにするため、「生物」というテーマに設定した。

2. 活動スケジュール

【6月13日 180分程度】

- ・ 試行錯誤しながらザリガニ釣りに挑戦し、釣れた嬉しさや釣れなかった悔しさを友だちと一緒に感じる
- ・ 釣りの餌、釣り竿、釣り場所は子どもたちが相談してどんなものにするか決める
- ・ 釣り竿は子どもたちがあらかじめ作って準備する

【6月13日以降 毎日15分程度】

- ・ ザリガニに興味を持ち、図鑑で調べたり、保護者に聞いたりする中で知る楽しさを感じる

【8月25日～9月10日 毎日1時間】 【9月11日～12日 各2時間】

ザリガニの会をひらき、他クラスの子どもたちを招待する

【10月29日】

- ・ 移動水族館で、世界のざりがにの仲間に触れる

【11月3日～11月14日】

- ・ 東京の海について調べ、葛西臨海公園へ遠足

【11月17日～12月13日 60分程度】

- ・ 清掃職業体験や移動水族館への参加を通して、生き物と環境を結びつけ考え、発表する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ 様々な生物（植物や昆虫、水生生物等）に触れる機会を作るため、園庭で育てる野菜や植物、メダカの水槽等を用意した
- ・ 興味をもった生物について関心を深めるため、図鑑を準備した
- ・ 釣りのイメージを膨らませられるよう、保護者の方の幼少期の体験談等を聞く場を設けた
- ・ ザリガニ釣りをするため、釣り餌、釣り竿を準備した
- ・ 釣りができる公園に出向き、自然の中で釣りに挑戦できるようにした
- ・ 子どもたちと相談し、ザリガニを飼育するための水槽や餌、資材を用意した
- ・ 飼育のなかで不思議に思ったことを話したり調べられるよう、1日15分程度の時間をとった
- ・ ザリガニに関する絵本や図鑑、観察するための虫眼鏡を用意した
- ・ 園内の他クラスに向けて、ザリガニについて知ってもらう展示物や掲示物、催しのため、絵の具、模造紙、PEテープ、ブロック、ブルーシート等を用意した
- ・ ザリガニの仲間として、他の甲殻類にも触れられるよう、移動水族館を呼んだ
- ・ より広い自然の中で生物を感じられるよう、自然の豊かな公園へ遠足する機会を作った

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【ザリガニ釣り】

ザリガニ釣りについての情報を集めるために、保護者に協力してもらいエサ、場所、釣竿を子どもたちとの話し合いの中で決定する。当日は2グループに分かれて各20分程釣りに挑戦した。最後諦めて帰ろうとした際に、ザリガニを2匹釣り上げた。ザリガニ2匹を園に持って帰ってきた。

【ザリガニの育て方を調べ、世話をする】

- ・捕まえたザリガニについて調べるため、絵本や図鑑を読む。
- ・調べてわかったことを画用紙にまとめ、保育室内に掲載する。
- ・毎日の餌やりや水換え、虫眼鏡での観察を通してザリガニへの興味や知識を高めていく。

【ザリガニ博物館の開催】

- ・にじ組のザリガニについて知ってもらおうとザリガニの会を開催しようと提案がある。
- ・園行事（なつまつり）でお客として遊んだ経験を通して、お祭りのようにゲームなどを用意して他学年を招待する。
- ・絵の具などを使って壁面制作を行い、衣装としてザリガニ帽子、なりきりコーナーでの衣装、玩具を使って水槽を作り上げるなど、それぞれが好きなことを活かし『にじ組博物館』の準備する。

【世界のざりがにの仲間を知る】

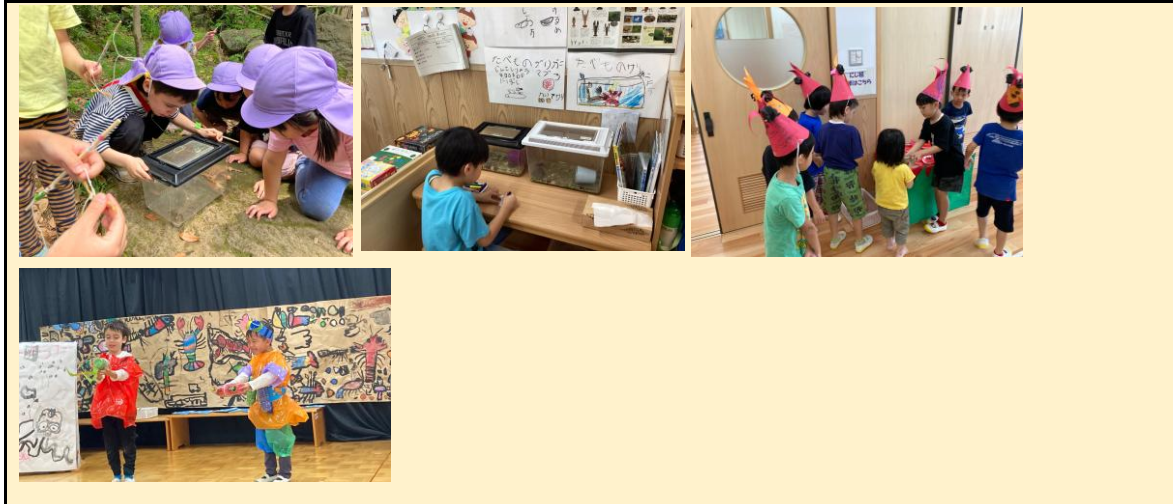
- ・ザリガニからさらに興味範囲を広げて、世界のざりがにの仲間について知る場を用意した。
- ・移動水族館にきてもらい、実際に触れたり、講師の方から子どもが興味関心を持っている個体ごとの生息環境や、子どもの疑問点に答えてもらった。

【東京の海を知る】

- ・移動水族館や絵本で子どもたちが興味をもった、東京の海や、なぜ絶滅してしまう生物がいるのかについて、葛西臨海水族園で実物に触れながら考えた。

【100年後の地球とザリガニを救うためには】

- ・絵本「環境破壊モンスター」を読み、未来を守るためには様々な環境問題があることを知り、どうしたらみんなにも知ってもらえるのかをみんなで考え、発表会で発表することを決めた。
- ・それぞれ『にじ組レンジャー』として、どんな衣装でモンスターと戦うか考え、衣装作りを行った。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・初めてザリガニ釣りに行く子どもが多く、クラス内の子どもの興味や知識に大きな差があったが、保護者を巻き込むことで少しずつ自分ごととして捉え方が変化している様子が見られた。

今回は、1回目の釣りで獲ることができたが、釣れなかった場合はどうして釣れなかったのか、次釣るためには子どもと考えた上で、再度釣りに行くことで更に探索活動が深まったと思う。

・ザリガニを様々な方向から観察をする中で道具を手にとって調べる子が見られるようになる。発見に気付いた子は友達に気づきを共有し、共感することの嬉しさを感じていた。

また、地域の図書館へ行きザリガニについての絵本を借り、文字を読める子が読むことで文字の読みが難しい子も一緒に楽しみ、ザリガニについて知ることができていた。

毎日の世話は当番が行う仕組みにしていたが、自由遊びや水換えの場面では特に興味を示している子が中心に関わることが多く、クラス内で興味の偏りができてしまった。

ただ飼育するだけでなく、いろいろな知識を深めていくことで、子どもたちもだれかに教えたいという気持ちに繋がっていた。

・長期的な活動として「ザリガニ博物館」を行う上で、子どもたちの興味や意欲を引き出すための保育環境や活動内容を考えていった。ある日は一斉活動の中で、ある日は自由遊びの中でなど工夫ができたことで子どもたちが飽きることなく、当日を迎えることができた。

また、当日は二日間に分け、他学年を招待したことで博物館の中でじっくりと楽しむ姿や、年齢によって関わり方を変え年長らしく振る舞う姿も見られたので良かった。

今回は保護者を案内することはできなかったが、開催する場所や展示物によっては保護者を巻き込んだ活動を行うことで、より子どもたちの達成感や喜びが大きくなったのではと感じた。